

阿賀野川自然再生検討会（第2回）

議事要旨

【開催概要】

開催日時： 平成24年10月24日（水）14:00～16:30

開催場所： 阿賀野川河川事務所2階会議室

【議事次第】

1. 開会
2. 議事
 - ・ 第1回阿賀野川自然再生検討会 議事要旨
 - ・ 既往伐採箇所モニタリング調査結果（報告）
 - ・ 焼山地区・高山地区の再生工法
 - ・ 砂礫河原の再生工法
 - ・ 魚道の整備工法
 - ・ 地域との連携方法およびモニタリング方法
 - ・ その他
3. 閉会

【審議内容】

事務局より、既往伐採箇所モニタリング調査結果、焼山地区・高山地区の再生工法、魚道の整備工法、地域との連携方法およびモニタリング方法について説明した。議事の内容は以下の通り。

（1）既往伐採箇所モニタリング調査結果について

- 1) 点在する河畔林は鳥類にとっての止まり木となるが、鳥類の繁殖地、小動物の移動経路等となるには、どのような形状で残せば良いのか、治水面と環境面から考えていく必要がある。
- 2) 樹林化の代表種であるヤナギが、どの位置・高さに定着するか、発芽後にどのくらいの時間が経つと流出しなくなるのかについての知見が少ないため、モニタリングでは、平面地形・高さを計測しておくことが重要である。
- 3) 阿賀野川の重要種の多くは水際に生育し、樹林化した場所には生えない。そのため、モニタリングでは、重要種の生育位置・高さを記録しておくことが重要である。
- 4) 樹林化に関するモニタリングは、通常、樹林化した後から始められているが、堆砂等との関連が大きいため、樹林化する前から始める方がよい。

（2）焼山地区・高山地区の再生工法について

- 1) 焼山地区の湧水は、ワンドの上流付近から湧き出すと予想されるため、ワンド上流部を広くした方がよいのではないかと。
- 2) 焼山地区では、既設の防災センターを展望台等として使うなど、利活用面とあわせて検討してはどうか。
- 3) ただし、再生後の姿として、野生生物中心の整備形状とするのか、釣堀のような利用も許容するのか、地域住民にとっての「いい川」のイメージを先に決める必要があるのではないかと。
- 4) 高山地区のようなワンドは、本来は自然の営力によってワンドが形成されるようにすべきである。しかしワンドは、形成したり消滅したりするのが本来の姿であるため、現在の阿

賀野川で、ワンドがどのくらいの期間維持されているのか整理しておくといよい。

(3) 砂礫河原の再生工法

- 1) 複列砂洲形成に不可欠な河道条件とは、横断方向の流量の不均一、及び河道の拡縮形状であると考えられる。シミュレーションの結果、流量の不均一が拡縮形状を形成することが分かってきた。
- 2) ワンドが減少した要因は、川のダイナミズムと土砂供給が少なくなったことが主因と考えられるが、ダム群ができる以前の出水頻度ではなく、現在の流況で砂礫河原やワンドが再生できないか検討していきたい。

(4) 魚道の整備工法について

- 1) 阿賀野川側のゲート部流速が2.5m/sと速いため、サケは遡上できるが、アユやモクズガニのような遊泳力の弱い生物の遡上は難しい状況である。
- 2) 今後、新たな魚道の設置方法を検討していきたい。

(5) 地域との連携方法およびモニタリング方法について

- 1) 地域住民にとっての「いい川」のイメージをくみ取り、魅力的な阿賀野川をつくっていききたい。
- 2) 議論の際には、川本来の姿とか川の生物についてご理解いただいた上で話し合わないと、千差万別の意見となってしまうため、議論の方法を考える必要がある。
- 3) 様々な立場の住民や関係者が集まる場をつくり、話し合うことから始めてはどうか。

(6) その他

- 1) 第3回検討会の日程は、後日、調整する。

以上